

保原中央自治振興会だより

第 5 号

31.2.28 発行

発行責任者
会長 一条恒男



会長あいさつ
一条 恒男

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、健康で幸多い年になるようお祈りいたします。

保原中央自治振興会も充足三年目となり、諸計画も動き始め成果が出ています。

事業として、保原の歴史巡りは人気のようです。又、聖光学院野球部の斎藤智也監督の講演は正に人生論、心に感ずるところがありました。そして、トレッキングや料理教室も成果をあげました。

講演会等は次年度も開催したいものであり、各部会では反省を生かし創意工夫しながら、喜んでもらえる事業を計画作成中です。

皆様方からの要望をお待ちしております。自治振興会の活動が、少子化や人口減少の対策となり、高齢者の参加が進み地区民全体の期待に応え、地域にとり大切な活動として定着するようお願いいたします。

皆様方のご健康とご多幸を願います。

活動報告

講演会

甲子園への道

聖光学院高等学校
野球部監督 斎藤 智也氏

平成三十年十二月一日(土)午後三時より、伊達ふるさと会館において、講演会が行われました。

会場には、小中学生から大人まで二百八十余名の方々が参加され熱心に聴講されました。夏甲子園大会十二年連続出場の日記録達成中である斎藤監督の講演には、「強くなるためには、勉強だけではない。野球だけではない。挨拶やゴミ拾い等のできる人が最後は強くなるのです。」



想いを熱く語る
斎藤智也監督

不動心、一燈照隅、下剋上、すべてのことを受け入れられる広い心、人や物に感謝できる選手の育成等々、監督の部員に対する情熱・子弟愛・甲子園への考えがひしひしと伝わってきました。

子どもたちの質問にも「全力疾走・ピンチをチャンスに・くらいつく執念・凡打は失敗ではない」等わかりやすく応えられました。

活躍する聖光学院野球部の相乗効果により、他の部活動も全国大会等で活躍中であり、県内トップクラスのチームとなっています。

毎年七千名規模で行われる「もの里マラソン大会」では、毎年野球部をはじめ、多くの聖光学院の生徒のみなさんがボランティア活動で貢献されています。選手への元気づける言葉かけ、大会準備や後始末のきびきびした行動には一見の価値があります。

いつかは勿来の関を越え、優勝旗が福島に届く日をみんなで待ち望んでいます。

感想・ご意見を頂いています。

- 引き込まれる講演会、又聞きたい。
- 今後の人生にプラスになった。
- 迫力ある講演に勇気を得た。
- 子供に先生のお話を聞かせたい。
- 前向きに行動する大切さを学ぶ。
- 人間教育が基本だと学ぶ。他多数



有意義なお話にひきこまれました



野球上手になるぞー伊達リトルチーム



▼さつまいも掘り体験
 十月二十五日(木) 保原幼稚園の年長さんと「さつまいも掘り」を体験しました。自分の顔より大きいものやネズミの形をしたさつまいももあり、みんな大はしゃぎ。天気にも恵まれ、楽しい一日でした。



▼世話役の会
 十月二十八日(日) 霊山町の石田ふるさと振興会と合同にて、『霊山登山&お食事合コンパティ』を実施しました。
 午前は、自然を楽しみながら霊山を登山。午後から「TRATTORIA La Wasabi」に場所を移し、美味しい食事をとりながら歓談。食事後のカップリング発表で五組のカップルが誕生しました。(地域づくり部会)



▼防災訓練
 十月二十七日(土) 環境防災部会の事業の一環として、伊達市主催の防災訓練に参加しました。
 まず保原中央交流館周辺にて、雨が降る中ではありましたが、車イスと徒歩の避難訓練を実施。その後、交流館和室にて避難所初動体制訓練で段ボールを使用した囲いとベッドの説明を聞きました。(環境防災部会)



雨の中、避難所に

▼男の料理教室①

十月二十七日(土) 保原町ソバ打ち愛好会の渡邊さん、石神さん、長谷川さんをお招きし、そば打ち体験を行いました。

初めてそば打ちをする参加者の方がほとんどで、班に分かれて講師の先生より丁寧にご指導頂きました。

打ったそばはすぐに茹でて、渡邊先生ファミリィが揚げてくださった天ぷらと一緒に参加者のみなさんと美味しく楽しくいただきました。(社会教育部会)



お味はいかがー



「ここが基本です。」と渡邊先生

▼健康料理教室

十一月四日(日) 月館町の工房で「うどん打ち体験教室」を行いました。

月館町で作られている小麦粉を使い、まず捏ねます。

次に自分の全体重を使い、目が回るぐらい踏んで伸ばします。

最後に、伸ばして切って、ハイできあがりです。

早速茹でたうどんを試食、初めて自分で作ったうどんは、コシがありもちもちで最高でした。(健康福祉部会)



①小麦粉を捏ねます



④はい、できあがりです



③伸ばして切ります



②踏んで、踏んで伸ばします

▼保原町の史跡巡り

十一月十一日(日)「第二回保原町の史跡巡り」を開催しました。

前回に引き続き遠藤利夫先生にご説明頂き、保原町の『仙林寺』『巖島神社』『熊坂適山、蘭斉の誕生地』『金平神社』『野崎寺観世音(丸山観音)』『正八幡宮』『駒止めの松の跡』『城ノ内不動尊』を巡りました。

遠藤先生の説明は丁寧で分かりやすく、参加者十九名の方々は真剣に聞き入っていました。
(地域づくり部会)



仙林寺にて



九山観音にて

▼街中ダツシユIN保原小学校

十一月十七日(土)保原小学校で開催された保原スクールコミュニティの事業である「こども祭り」に参加しました。

健康福祉部会では、「第一回街中ダツシユIN保原小学校」を企画。七十名が参加しました。

各学年の男女ごとにレースを行い、優勝者にはメダルを贈りました。
(健康福祉部会)

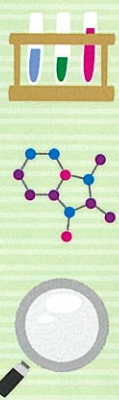


速く走るコツは何？

▼おもしろ実験教室

同じく「こども祭り」にて、社会教育部会では「第一回おもしろ実験室IN保原小学校」を開催。

『パイプを上るてんとう虫』『綿あめを作ろう』『電気クラゲで遊ぼう』『空気砲』『ペットボトルロケット』を行い、科学の不思議を体験しました。
(社会教育部会)



電気クラゲで遊ぼう



「もやし結び」に熱中

十一月二十九日(木)保原小学校のクラブ活動において、しめ縄作り教室を開催しました。遠藤利夫先生より、由来や作り方を教えていただきながら、藁で編んでいきました。藁に触るのが初めての児童がほとんどで、最初はうまくいきませんでした。慣れてくると上手に作れるようになり、作品が完成しました。十九名参加。

しめ縄作り教室



十二月二日(日)バスで移動し、「蕎麦打ち体験IN猪苗代」を行いました。自分で打った本場の蕎麦を堪能。「はじまりの美術館」を観覧し、帰りには野地温泉につかり、一日の疲れを取ることができました。(社会教育部会)

男の料理教室②



十二月十六日(日)事務局主催の門松づくり教室を開催しました。講師の遠藤利夫先生より、門松の由来や材料の説明を聞き、作業に移りました。二時間の作業時間はあっという間に過ぎ、参加者十九名のみなさんの作品が完成しました。

門松づくり教室



皮からタレまで手作り本格餃子



二月三日(日)保原中央交流館で「手作り餃子料理教室」を開き、男性を中心に約三十名が参加して餃子作りに挑戦しました。講師は中国出身の大橋愛先生。皮からタレまでを手作りでやる本格派の指導を受け、本場の餃子を仕上げました。みんなで美味しくいただきました。「家庭でも是非作りたい。」との声が多く聞かれとても楽しい料理教室でした。(社会教育部会)

男の料理教室③

団体紹介 その3 中村太鼓保存会

中村太鼓保存会

会長 須賀信博

中村太鼓の発祥は、厳島神社で江戸時代より行われていたつこ引き祭りの裸衆の土気を高めるための太鼓だったと聞いています。保存会は昭和四十三年に結成され、祭りだけでは無く各イベントに参加し、県内外、更には海外でも太鼓の演奏を披露してきました。現在会員数は、三十名余りおりますが、仕事の都合上地元にはない会員も居り実質十二〜二十名程で活動しています。

中村太鼓は、譜面の無い伝承太鼓です。見て、聞いて、感じて工夫して覚え、今まで引き継がれて来ましたが、このような太鼓を後世に伝えるために祭りの時期が近くなると部落の子供たちの太鼓の指導なども行っています。

保存会の昨年の活動としてはつこ引き祭り、厳島神社人形祭りの盆踊り、天照神明宮秋季例大祭などの祭りは元より民俗芸能ワークショップ、梁川ホーム慰問、サマーフェスティバル盆踊り大会、ももの里マラソン応援太鼓、福島建設工業新聞社五十周年記念式典、ふるさとの祭り2018 IN富岡、保

原小学校二年生課外授業などで太鼓の演奏を披露しました。これからもより一層様々な行事に参加し中村太鼓を後世に伝え残して行くような活動を続けていきたいと思えます。



太鼓練習に励む子どもたち



富岡ふるさと祭り

立志式新たな決意

二月六日(水)、午前十一時から、伊達市立桃陵中学校体育館において、伊達市民会議と保原地域青少年育成推進協議会主催の「立志式」が行われました。

来賓、保護者、町内会長、民生委員様等多数の方々から祝福されました。

式に参加した百六十七名の中学生は、十四歳になる喜びを感じつつ、自立心や責任感を新たに決意するよい機会となりました。各々が書いた決意のメッセージは、本日親宛てに郵送されました。



青雲の志をいदैて・新たな決意

立志式お祝い会

立志式終了後、スカイパレスに移動。「お祝い会」では、テーブルマナーの基本を学びました。須田市民会議会長様から「周りの人を思いやり食事と会話で楽しく過ごして下さい。料理代は市からの補助金で賄われています。」とお話があり会食が始まりました。

お祝い会メニュー

- オードブル (海の幸のジュレ)
- スープ (かぼちゃのポタージュ)
- パン (レーズンパン、胚芽ロール)
- 魚料理 (白身魚のムース)
- 肉料理 (チキンのグリル)
- デザート (フルーツ、アイスクリーム)
- 紅茶 (紅茶)

ナイフとフォークの使い方難しそう

いただきます

感謝して食べなくちゃ

素敵な音色だね

うまい うまい

ごちそうさまでした

フルーツ演奏 (石澤由美子氏)

- 手紙 拝啓十五の君へ
- ふるさと
- Lemon
- アイノカタチ

新成人おめでとう

一月十三日(日)、スカイパレスにおいて午前十時から「成人式」が盛大に行われ、二百三十余名の新成人をお祝いました。

東日本大震災の年に小学校を卒業、あれから七年。その子どもたちが大きく成長し本日を迎えました。

「めあてをもって生きる。そして実行する。失敗はするけれど必ず成功につながる。感謝の気持ちをお忘れずがんばろう。」と伊達市長様から式辞がありました。

新成人を代表し、小野啓人さんに成人証書が授与され、小島睦弘さんが「めあてに向かい、今まで育ててくれた親・友人・先生・地域の方々への感謝を忘れず進みます。」と誓いの言葉を述べました。

その後、コーロ・プリランテ保原のみなさんが「伊達市歌」と「たしかなこと」を合唱、晴れやかな新成人を祝う出発の響きでした。

緊張した面持ちで式に臨んだ新成人は、式終了後、同会場においてパーティが開かれ、久しぶりに会った友人、先生方との懐かしい会話に話が弾みました。

これから試練の岐路が待ち構えています。若い力を大いに発揮し、未来に向けて一歩一歩着実に歩んでほしいと思います。



晴れやかに出発する新成人のみなさん

タイムカプセル 八年後の成人式で再開

平成二十三年一月十三日、保原小六年生百二十一人は、成人式後開封するタイムカプセルに、八年後の自分にあてた手紙や思い出の品を詰めた。

千春さんが、同校卒業時に担任へ預けたタイムカプセルを開封した時、ビデオや写真で当時の思い出が懐かしくよみがえる感動を味わった。

これを契機に「夢と感動をつなげよう」と夫婦で会社を立ち上げた。昭和六十年度に同校卒業生の浅野千春さん、敬尚さん夫妻が母校を第一号に選んだ。

「タイムカプセル卒業便」と名付けたサービスは、高さ十センチほどの四号缶に、一人ずつ自分への手紙や思い出の品を入れ、倉庫で八年間預かるシステム。

土の中に埋めないため「埋めた場所が見つからない」「水が入りだめになった」などの心配がない利点があり、千春さんは無償で預かった。

校舎移転改築に伴い、現校舎での卒業生は今年が最後である。

平成二十三年一月十四日付
福島民報社記事から一部掲載



卒業生・二瓶校長 思い出預かる浅野夫妻



思い出の品 8年後の成人式が楽しみ

写真提供は、福島民報社

事業実践のための 自治振興会諸会議

保原地区の皆さんに、「参加してよかった。また参加したい」と言われるように、諸会議を重ね、実践に移しています。

計画作りから実践までを総務企画部会の例で紹介します。

自治振興会総会

← 年間計画（講演会の開催）

部会の開催 ①〜⑥

① 講師はだれ、時期はいつ

② 講演内容、会場はどこ

③ 講演内容確認、当日の流れ、当日までの日程表作成

④ 役割分担、会場づくり

⑤ 準備するものは何

⑥ 看板、要項、チラシ作製、講師代、後援申請他

⑦ チラシ配布先、募集方法は

⑧ 広報・商店・企業

⑨ 各種団体、学校、交流館

⑩ 事前打ち合わせ会

⑪ 最終チェック、シナリオ

⑫ 役員会で説明

⑬ 時期、講師、会場、募集

⑭ 講演会当日

⑮ 会場準備、講師対応、シナリオ確認

⑯ 講演会の反省、次年度の課題



健康福祉部会



地域づくり部会



社会教育部会



環境防災部会



役員会



全体会（平成三十一年一月八日）

お詫びと訂正 本会発行第四号の中で、柏町町内会発足年を昭和五十三年に訂正願います。今回第五号の町内会だよりは、紙面の都合上、割愛させていただきました。

保原の方言 その4

阿部 包昭編集から

- あっから、そだにいんねえ
(あるので、そんなに要らない)
- すくむぐれっからええらしくね
(すぐ怒るので可愛げがない)
- 人には、うそこくなよ
(人には、嘘をつくなよ)
- ほんじゃって、仕方ねえべ
(そう言われても、仕方ないです)
- 最近、ちよつとほろげだない
(最近、ちよつと呆けましたね)
- ぱっち、ほんこでやっべ
(ぱっち、真剣勝負でやりましょう)
- 着物の縫い方、までいだない
(着物の縫い方、丁寧ですね)
- まどろっこくて見でらんにい
(手が遅くて見てもらえない)
- あしたまでまんにやねぞー
(明日まで間に合わないぞ)
- 気持ちわりが見だぐね
(気持ち悪いから見たくない)

あしがき

平成三十年度も間もなく終了です。お忙しい中、本振興会諸事業にご参加いただいた皆様方、又原稿を御寄せいただいた方々に感謝しつつ新年度の発展を祈ります。

問い合わせ先 保原中央自治振興会 住所 保原町宮下二二一四（保原中央交流館2F） 電話 〇二四一五六三一一三二 FAX 〇二四一五六三一一三七 メール h-shinkukai@aurora.ocn.ne.jp